



# つゞけ丘だより東京

## つゞけ丘同窓会東京支部会報



発行 函館西高等学校つゞけ丘同窓会東京支部 会長 折田 信一  
 〒136-0072 東京都江東区大島 8-41-15-215 TEL&FAX 03-5609-9881  
 メールアドレス jimuj@td-tokyo.com  
 印刷 三美印刷株式会社 題字 細見 紀子(14回生)

ホームページURL; <http://www.td-tokyo.com>



▲佐々木太郎前会長

総会は野口卓史常任幹事の司会により、高橋順吉副会長の開会宣言、物故者黙禱に続き、竹澤秀明学年幹事の活動報告がありました。今回の報告はさる2月に学年幹事会でご承認いただいた昨年の事務局活動報告、会計報告そして役員改選の決

5月11日(土)12時よりつゞけ丘同窓会東京支部の総会・懇親会が開催されました。  
 会場は、今回も5回連続となる目白「椿山荘東京」。毎回同窓会開催日は晴天の幸運となり、例年同様多くの皆さんにご参集いただきました。年々高齢化のため参加者の減少を危惧しておりましたが、前回同様来賓を含め、220名の方が出席されたことは、事務局として大変ありがたいことです。「椿山荘」の新緑の庭園と結婚式の華やいだ雰囲気も相俟って楽しい同窓会となりました。

### 第18回 東京支部 総会・懇親会を開催

定事項でした。現役員は3期6年を経て全役員改選となり、若返りの役員構成となります。続いて新役員のご紹介と折田信一新会長の決意表明で総会を締めくくりました。



▲折田信一新会長

今回はアトラクションとして演歌歌手の島あきのさんを迎えて行われました。島さんは元西高校長の堂下則昭さんのお嬢さんで七飯町出身、北島三郎プロデュースの縁で、初めて出演してもらいました。持ち歌「津軽海峡」をはじめコブシのきいた演歌を熱唱し、拍手喝采で会場が大いに盛り上りました。皆さん、2年越しの話に時間がすぎるのも忘れ、話が尽きない同窓生は二次会へと移動

次いで、いよいよ皆さんが楽しみにしていた懇親会の開宴。佐々木太郎会長挨拶、佐藤裕之函館西高校長のご挨拶、中山浩一同窓会本部会長の乾杯で始まりました。佐藤校長から今年4月から陵北高校との統合新生「西高」が誕生したとの報告があり、少子高齢化が進んでいることが身近に感じられるお話でした。



最後は恒例の「港踊り」、校歌斉唱、往年の応援団による応援歌斉唱とエール発声と進み、学年幹事長の閉会挨拶と三本締めでお開きに。2年後の総会・懇親会にも多くの同窓生の出席を心よりお待ちしております。  
 前学年幹事長 竹澤秀明(17回生)

していったようです。

懇親会写真特集 テーブルごとにハイチーズ!!



▲佐藤裕之函館西高校長



▲つゝじヶ丘同窓会本部、他校同窓会など来賓の皆さま



▲森さんの著書「箱館奉行所始末」などを会場で販売



▲作家森真沙子さんとファン倶楽部会長・岸田信高さん(11 回生)





司会を務めた  
野口卓史さん  
(27回生)





演歌歌手の島あき子さん



恒例の応援団OBによる応援歌斉唱



## 18回総会二次会特集

## 【女子高2回生】



新生西高は校歌も変わり母校がなくなった感じが言っていたね。私たちは8人でしたので若い方が二人同席。二次会は、高女37回生の染木さんと田樞さんと高1回生山木さんが一緒に、4時過ぎるまでおしゃべり。事務局の齋藤さんに車椅子や喫茶店手配などいろいろお世話になりました。今後ともよろしく願います。(成田慶子)

## 【西高9回生】

9回生はホテル椿山荘カフェ・フロrestaにおいて同期会を開催しました。毎年、関東在住の同期生で関東旅行会を開催していますが、旅行会に参加できなかった同期生も今回のいわば臨時同期会に出席して、一同、有意義な時間を過ごすことができました。いつもこの会のまとめ役である徳田紀美子さんに代わって、

今回は本田啓さんの号令一下、森英爾さんが補助金の申請役、中村浩がカメラでの記録係を努めました。他に参加者は、中山浩一本部同窓会会長を始め、大矢紀夫、北川佳子、井藤敏枝、小島紀美子の皆様です。会の最後に、



ました。(中村浩)

## 【13回生】

今回の二次会はいつもとより人数が少なく、二次会のみ出席を加え12名でした。が、今回初めて総会に出席した人がおり、今後出席したいというのが嬉しいニュースでした。今年は大方の人が後期高齢者の仲間入り。元気で来年の函館同期会、次回東京総会にも出席できるように健康で過ごしましょう。(斎藤勝美)

## 【14回生】

総会・懇親会には18名、二次会には22名が出席しました。遠くは小樽・仙台・新潟・京都・宇治・愛知から参加されました。会場は、椿山荘からバス1本で行ける「北海道・新宿西口店」、便利なので数回利用し

ています。隣の部屋では18回生が盛り上げていました。

55年振りに再会した人もいますが、15分もしないうちに17歳の高校生時代に飛んでいました。席を変えながら、あつという間の3時間。高齢者がいるので関西に帰る方、久しぶりに東京の息子の所に向かう方などいろいろ。それでも飲み足りない



十数名が近くの「三代目網元・西新宿店」で2時間余りを過ごし、来年の東京支部14回生「修学旅行会」を北海道で実施することを確認して散会しました。(若林郁雄)

## 【17回生】

18名の同期生が集まり大変楽しい会となりました。今回初めて同窓会に参加した人、同期会に参加したのは初めての人、函館からも複数の参加があり、久しぶりに賑やかな同期会となりました。今回も本格中華の店で飲み食べ放題の料理と近況報告で大いに盛り上がりました。が、

2年前に比べて話は

は尽きないが飲み量は減り、古希を過ぎたことを実感した次第です。

2年後の懇親会での再会はもちろん、最低年一回は集まろうと確認して散会となりました。(竹澤秀明)



## 【18回生】

総会には北海道、京都、九州の広範囲から集まり、来賓の札幌支部長を含め27名が参加。みんな3か所の各テーブルを歩き来して当時の思い出話や現況に話が弾んだ様子です。

また、参加者全員の卒業アルバムの写真と最近の写真を並べた「ピフオア〜アフター」紙を配ったところ、懐かしさと笑いで盛り上がりました。当時は10組までであり、今回は残念ながら9組からの出席はなかつたので次回に期待したいと思いません。

二次会は「在京18回生の古希の



ケに行き楽しい1日を過ごしました。(安原秀樹)

【19回生】

総会には19回生8名が参加し、そのうち7名で二次会を実施しまし

た。いつものメンバーですが、話は尽きず、約1時間半。ビール、チューハイ、ハイボールを飲みながらおいしい焼き鳥にご満悦でした。



集い”と銘打って総会に出席しなかつた方にも声をかけ総勢29名が参加。海

老鍋などの料理に舌鼓を打ち、飲み放題で飲みまくり、話題の絶えないあつという間の2時間。さらに各グループで喫茶店やカラオ

【20回生】

今年卒業50周年の同期会が函館で10月12日に行われる予定で、再会を誓って別れました。(藤谷敏雄)



20回生は同窓会参加者12名(同伴者1名)のうち8名と、恩師2名の10名で銀座の居酒屋で二次会を行ないました。自分たちだけの個室だったので、心おきなく語り合うことができ、

【24回生】

春時代だったからこそ、まだ可愛いと言えそうな、悪たれの話題で盛り上がりました。あつという間に時間は過ぎ、再会を期待しつつ終了となりました。写真はカメラの電池切れで1、2枚しか撮れなかったのですが、恩師のにこやかな笑顔が二次会の雰囲気伝えてくれていると思います。(松田陽一)

私達、24回生は、総会・親睦会の楽しい余波を受けて、池袋の某カラオケ店へと二次会の場を移しました。参加者は10名で、マイクのおく間もないぐらいの盛り上がりでした。

また、今回の二次会は、長年東京で頑張つてこられた皆川敦子さん(通称あつちゃん)が函館へ戻られることになり、送別会も兼ねていました。そんなわけで、ちよつと寂しい二次会になると思っていました。最後に我々青春の思い出の曲(1971年大ヒット)ザ・フォーク・クルセイダースの「あの素晴らしい愛をもう一度」(北山修作詞・加藤和彦作曲)を大合唱してあつちゃんを送る事が出来て本当に良かったです。あと少しで我々も本格的な年金生活者になりますので、これからはいろいろなライフスタイルを考え、健康管理に十分気をつけたらいいと思います。また、西高校長の佐藤裕之先生からお話があった、「西高プライド」を今後も胸に刻んで楽しい時間を送れるようにしたいと思います。(鈴木直人)



【32回生】

総会終了後、29回生3人、30回生1人、32回生5人、33回生1人、42回生1人の合計11人で、高田馬

場駅前の築地食堂 源ちゃん(居酒屋)にて合同同期会を開催しました。

総会初参加の石塚秀樹さん、田中優行さん、札幌から参加の三上昭子さん、菩提寺孝幸さん、といったフレッシュな顔ぶれがそろいました。さらに、同期生同士での6月挙式予定のサプライズ発表などがあり、さまざまな楽しい会話が飛び交い、箸を持つ手を忘れ、食べ物が残つてしまつてしまつた。近いうちの再開を約束し、高田馬場駅前にて散会となりましたが、3次会、



4次会まで足をのばした歌好き、話好きもいたようです。(長谷川好広)



## ◇回生だより

## 16 回生同期会を開催

令和元年5月24日、毎年春に行われる同期会が、今回は中野サンプラザの15階で開かれました。こじんまりとした会場に27名が集い、その素晴らしい景色をよそに黙々と和洋折衷の料理をいただき、よくしゃべりました。

いつもなら閉会後は必ず行くカラオケも今回は取りやめ。引き続き同じ会場を借りられたということもあって、ほとんどの人が居残ってひたすらおしゃべりを満喫しました。おしゃべりの効用は計り知れません。

(猪しま子)



## ◇同窓生の広場

## 紙飛行機の思い出

木津 則子(14回生)

それは高校1年生の春、入学して間もなくのことだった。クラスの人の顔と名前もはっきり一致しない頃、数学の授業の時間に数人の生徒が指名され、前に出て黒板に数式と解答を書くことになった。運悪く私の名前も呼ばれてしまい、前に出るようになったが数学が大の苦手だった。さっぱり答えが浮かばず、黒板の右端の前でも書けずに立ち尽くしていた。私の他に指名された3〜4人の生徒は、すでに解答を書いて席に戻っている。頭が真っ白になりながら、半泣きで立ち往生している私の背中に、何かコツンと当たった。見ると、ノートの切れ端のような紙で折られた飛行機だった。広げてみると、数式と解答が書いてある。誰かが、答えを覚えてくれたのだった。幸い先生は、生徒の席の間を見回っていて、私の事は目に入っていないようだった。私は、紙飛行機に書かれていた内容を必死に黒板に丸写しして、そそくさと自分の席に戻った。とにかく、顔から火が出そうなくらい恥ずかしかった。



当時は、一人で立ち往生した恥ずかしさと劣等感が先に立ち、誰が紙飛行機を飛ばしてくれたのかを考える余裕がなかったが、時間が経つにつれて、私を救ってくれたのは誰だったのだろうと思うようになった。

七重浜から函館の高校に進学したばかりの私は、都会の人はなんてハイカラなことをしてくれるのだろうかと、感動と感激の気持ちでいっぱいだった。さっと答えを書いてくれたことからして、きっと頭の良い生徒だろう。そして、紙飛行機という手段を使ったことで、女子ではなく男子ではないかと推測した。

一番成績の良かったWくんか。しかしWくんの席は、出席番号順に座っていた当時の教室の一番後ろだったので、黒板の前まで飛ばすのは容易ではないだろう。次に、紙飛行機が飛んできたのは私の斜め左側なので、方向的にTくんではないかと考えた。しかし、卒業して何十年も経った平成9年頃の同期会でTくんに話したところ、「自分ではない」と言う。

それならばもうこの人しかいない、と思う人がいた。席の位置、頭の良さ、機転、正義感など、いくつかの条件から、Kくんの間違いないと考えた。きっとそうだと思いますが



▲写真は著者とは関係ありません

本人に言うことができず、初めてのその話をしたのは、平成24年の同期の東北旅行会の時だった。実はKくん本人は、「覚えがない」と言ったのだが、周囲の元クラスメートたちが、「Kくんならそういうことをするだろう、そうだ、絶対にKくんだ!」と口々に言い、私の恩人はKくんということになった。

今思えば、先生はもしかすると、私が誰かの助けを借りたことを知っていたのではないかと。黒板を前に一人長時間半泣きで立っていた私を、叱つたらよいか席に戻したらよいかと、対応に困っていたのかもしれない。今ならば、そういう大人の気持もよく理解できる。

あの紙飛行機のおかげもあって、苦手な数学で赤点も取らず無事に卒業することができ、皆と一緒に第14回卒業生になれた。あの当時は、恥ずかしいばかりで何もできなかったが、紙飛行機を飛ばしてくれた人は勿論のこと、私の様子を見てもはやし立てたりしなかったクラスメートたち、気付いていたかもしれないのに咎めなかった先生にも、とても感謝している。

何十年経った今でも鮮やかに心に残る「紙飛行機の思い出」である。

◆おじさんぶらり一人旅④  
お伊勢参り

野口 卓史(27回生)



今春、念願のお伊勢参りに行ってきました。江戸時代の超人気ツアー、犬まで行ったというお伊勢さまで、行く前に、125ものお宮の総称が伊勢神宮であるとか、何十年に一回式年遷宮があるとか、ざっくりの知識を入れてのお参りでした。いつものように土日でのツアー。土曜は、鳥羽方面。「鳥羽水族館」からミキモト真珠島の「真珠博物館」「御木本幸吉記念館」を回って伊勢へ。いよいよ日曜はお伊勢参りです。「外宮」入口にある「赤福」の outlet で、「ぜんざい」を食べてスタート。そこから参拝所までは、結構歩きました。お清めして向かいましたが、参拝する人々の行列がずっと続いていました。雨模様でちよっぴり寒かったの

ですが、長い行列が続いています。江戸の昔もこんなだったんでしょか。

そして本殿へ行ってびっくり、なんと本殿ははるか奥で、屋根が少し見える程度。外宮は「豊受大神」を祭っております。敷地内のお社もいくつかお参りしました。そのあと、バスで内宮へ。約20分程でしようか。内宮は「天照大御神」を祭っています。内宮も外宮同様、本殿はほとんど見えず。同じように敷地内のいくつのお宮をお参りし、門前の「おはらい町」へ。ちよっぴりお腹もすいてきたので、「おはらい町」の一角にある「おかげ横丁」の浪曲茶屋で、「にゅう麵」を食べることにしました。

その後、同じ横丁にある「神話の館」に寄り、「おはらい町」をブラブラ。人でてんこ盛りですね。渋谷のスクランブル交差点のようでした。途中「赤福」の本店や、レトロな郵便局、お土産屋など諸々。けっこう大きな門前町でした。

雨の中、身体も冷えてきたので、途中の「CAFE」で一服、春限定の「桜のモンブラン」をいただきました。夕方までブラブラし、バスで「伊勢市」駅近くのホテルへチェックイン。晩御飯は松坂牛を食べに肉バルへ。地ビールを1本だけ飲んで、あとはご飯とお肉を。なかなかリーズナブルなお店でした。

あとで家族にラインで写真を送ったら、「三女から一言、食ってばっかりだな！」と。家に帰って体重を測った



ら、3 kg程増えており、それから必死に落としました(笑)。

足腰たっしやでないと、お伊勢参りはけっこう大変かと。まだお参りしていない方は、是非おいで下さい。

◆真沙子さん最新刊  
渡りきれぬ橋／柳橋ものがたり③  
「江戸版・家政婦が見た」が人気シリーズに！

井田 幸子(20回生)

作家・森真沙子さん(11回生)の新シリーズ「柳橋ものがたり」は昨年8月にスタート。これまで3巻が発売され、重版となる人気シリーズに成長している。

物語の舞台は、江戸一番の花街・柳橋の入り口に建つ船宿「篠屋」。時は、世情不安が高まりつつある幕末。主人公は、住み込み女中の綾、二十八歳。武家の娘・綾がなぜ船宿の住み込み女中になったのか。その謎は明かされぬまま、篠屋で巻き起こるさまざまな事件の顛末が綾の目を通して描かれる。登場人物は、幕臣旗本や薩摩藩士、売れっ子の美人芸妓、

猪牙舟の船頭、岡っ引きなど多士済々。女優・市原悦子さん主演の人気TVドラマシリーズ「家政婦は見た」の江戸版といたい作品だ。

最新刊「渡りきれぬ橋 柳橋ものがたり③」は、この8月末に上梓された。「この橋の向こうには、何かが待っている。渡りきれれば……」の思いを胸に、ままならない日々を生きる庶民の哀歓を描く。1話ずつ読み切りスタイルで全5話を掲載。森さんの代表作「箱館奉行所始末(全5巻)」とはまた違ったしっとりとした風情が楽しく魅力的だ。主人公・綾の素性と秘められた過去が少しずつ明らかになっていくストーリー運びにも目が離せない。人気女優の主演によるTVドラマを見てみたい、と思うのは私一人ではないだろう。

◎購入は、二見書房オンライン書店 <https://www.futami.co.jp/fjh/> または楽天ブックスの電話注文で。 0120・29・9625



※お詫び 岸田信高さん(11回生)の『波瀾万丈の軌跡』完結編は、本人の病気で掲載が延期になりました。

◆ちよびつと昔語り⑧  
カムバック北洋船団・  
函館港 夢物語

廣瀬 菊枝(16回生函館在住)

1954年(昭和29)、北洋博覧会が函館市内で開催されました。戦後も一段落、政財界をはじめ、これからの日本を背負う大人たちによって北洋漁業の基地を函館へと気運が高まったのです。私は小学一年生。函館公園の博覧会会場で、「電気」の釘付けになりそこから動かなくなりました。後年父が笑っていました。電気はテレビジョン。生まれて初めて出会ったテレビは、テストパターンの静止画面のみでしたが不思議な箱でした。この博覧会がきっかけで函館市民に戦後の新しい文化生活がやってきたのは間違いありません。「北洋船団歓迎」のフラッグが街の通りに掲げられ、デパートは夜間営業。



頭にタオル鉢巻き長靴姿の北洋のおじさん達が堂々の街歩き、夜の大門

は北洋船団ワールド。各地から見送りに来た家族と出港まで過ごす旅館は満員。お土産、洋服や靴を新調する家族連れが街に溢れていました。北洋さんと関係のないような商店にまで活気が溢れ、北洋船団一斉出港に向けて昼も夜も働きづめでした。歓楽街の映画館、一杯飲み屋、バー、スナック、キャバレー、ストリップ劇場等々。丁度、お花見の時期で函館公園内は北洋のおじさん連が陣取り、内地からやってきた流しのギター、三味線弾きのおじさんおばさんらと盛り上がり、大層な賑わい。いよいよ出港の朝、まだ前夜の酔いの残る船員が、見送りにきたホステスの投げた五色のテープを受け取るうとして海に転落。後続の独航船に引き揚げられて北洋に向かうのも毎回の出来事でした。

北洋全盛の頃は16船団、母船に加え500艘以上の独航船が梯団を組み、軍艦マーチやサブちゃん、都はるみの演歌と共に函館港から一斉に出漁していく光景は勇壮でした。が、騒音が母校の校舎まで届き、窓を閉めても聞こえてきたのを思い出します。あれから約半世紀の時が流れ、函館港はほとんど時が止まっています。出船入船は忘れた頃にやってくる大型クルーズ船のみのようです。

北洋博覧会の2か月後には台風襲来。洞爺丸等の海難事故で1430人死亡、112人行方不明、被害家屋3万戸もの大惨事に。豊川町の我家に東川町ロキシ映画館の看板



が突き刺さり、大きな穴が開き、翌朝、家の中から青空が見えませんでした。ところで、北洋船団から思いついた私の夢物語は、港全体を防災基地にする「函館防災基地港」構想です。大災害時、陸路の

全面途絶が想定されます。そこで、ぐるっと海の日本を活用し、災害地の最短海上に救援船を最終させ、洋上から救援活動を展開できるフェリー規模の船舶で船団をつくるのです。◆母船(官邸直轄司令部)ヘリポート20機以上離着陸可能甲板所有。官邸直轄スポークスマンを置く。司令室を置き、船団全体(官民連携)を統括。救急医療(医療資材完備)設備所有。

◆第1梯団/総務人事(医者・看護師等交代要員含む)  
◆第2梯団/情報全般(携帯基地局船含む)  
◆第3梯団/現場実動船

◆第4梯団/補給船(燃料・食料・重資機材、上陸用舟艇)

平時は各地でそれぞれ災害プロ集団(警察・消防・自衛隊選抜)を養成し、有事に緊急召集。年2回、合同訓練を函館防災基地で行ないます。大きな船より専門船を多く作った方が小回りもきき、初動が迅速で、長期化しても交代要員の刷新が容易で

す。刻々と変動する災害状況を把握でき、タイムリーな救援態勢が維持できます。さらに、全国各省庁から防災基地要員を集め、海上と地上でそれぞれ研修を行ないます。終了後は函館道南観光や温泉へと誘導し、仲間同士の揺るぎない絆、人間関係を築くようにします。

ボランティア養成所では、小中学校の修学旅行の一環として自分の命は自分で守る研修をします。医師団が乗り込む船では、平時は研修要員の人間ドックを実施します。研修生が増えるとかつてのように函館市内も雇用の創出可能。物流・消費活動も活発になり、若い家族も安定して生活ができるし、人口も増えます。

今後、大小様々な災害が想定されます。周りを海に囲まれた日本に防災専門の基地港があってもいいのではないかと思います。世界各地の災害現場へ救援に向かう日本の船団があつたら、海洋国日本の役割も果たせます。組織力・チームワークが得意な日本人の能力が発揮でき、世界各国の日本に寄せる信頼は不動になります。業績を重ねれば、海外からの研修、見学者が増え、ノウハウも輸出可能。函館の街に開港当時のような賑わいが戻ってくるでしょう。今後自然災害は必ず起きるし、避けられないのですから、二次三次の災害を防ぐ知恵と勇気と決断は国の最優先課題です。そして、私たち個人も、自分の命は自分で守る日々の心がけが肝要です。

★「バル街」が伝統芸能に!?  
**函館西部地区バル街が**  
**サントリー地域文化賞受賞**



加納 諄治  
 (16回生函館  
 在住)

!! 西高のあ  
 何とびつくり

る函館西部地区で15年間続いている「函館西部地区バル街」が、「第41回サントリー地域文化賞」をいただきました。実行委員の総勢は15人ですが、代表の深谷宏治君と開雄三君、事務局長の私が西高16回生。ほかに19回生の八木啓一君、20回生の太田誠一君も実行委員になっています。

「サントリー地域文化賞」は、公益財団法人サントリー文化財団が毎年五つほどの団体に与えるもので、これまで「琉球國祭り太鼓」や「淡路人形座」などが受賞していて、「ええっ、われわれも伝統芸能!」という驚きがバル街実行委員会で飛び交ったわけです。

この賞は、「地域の文化向上に顕著な貢献をした個人・団体」に対して贈られると、財団のパンフレットにあります。2019年(第41回)は「函館西部地区バル街」とともに、群馬県渋川市の「上三原田歌舞伎舞台操作伝承委員会」など4団体が選ばれ、9月下旬に東京で行なわれた授賞式に実行委員7名が出席して賞を

受けてきました。

40年前の第1回には、大分県の県民オペラ協会などとともに、「カール・ワイデル・レイモン氏(個人)手づくりハム・ソーセイジの製造」が評価されて受賞しています。その後北海道では14の団体・個人が受賞し、道南からは江差追分会、南茅部沿岸漁業大学、函館野外劇の会が続いています。

函館西部地区バル街は2004年2月に「スペイン料理フォーラム in HAKODATE」の前夜祭として行なわれたのが始まりです。深谷君が、自分が料理修業したスペイン・バスク地方の料理が世界の料理シーンのトップを走っているにもかかわらず、日本ではスペイン料理といえはヨーロッパの田舎料理という認識にとどまっていることを残念に思い、スペイン料理の現在を伝えるまじめなフォーラムをやりたいと企画したイベントでした。スペインの若手シェフを招いたスペイン料理講習会やフラーメンコライブなども、バスク地



方の生活習慣になっっている「バル巡り」の楽しさをほんの少しだけでも感じてもらいたいと「西部地区で一晚のバル街を」が企画されました。

十字街周辺のカウンターのある店に頼み込んで25店、450枚のチケットを販売。1回限りのつもりのバル巡りイベントが、予想を超えて函館市民の好評を呼び、またやってくれないかという声がたくさん寄せられました。そこで、その年の秋に単独で2回目を行い、気がついたらこの9月で32回、76店5千枚のイベントに成長しています。

この間、日本各地から「自分たちもやってみたい」という問い合わせが相次ぎ、一度でもバル街をやったことのある町は600に上るそうです。現在、年1〜2回の定例開催をしているのは100都市くらいでしょうか。

サントリー地域文化賞の受賞理由は「街角の社交の創出」と「バルイベントを全国に広め定着させたこと」となっています。思いがけない受賞と評価を受けて、「簡単にはやめられなくなつた」と実行委員メンバーは顔を寄せ合っています(笑)。いつまで続くかわかりませんが、高齢化と人口減少の進む函館西部地区の盛り上げの一助になればと、やはり高齢化しつつある実行委員も初心に帰って頑張ろうと思っています。

函館に帰郷する卒業生の皆さんは、バル街目をつけて日程を作ってくださいとありがたいです。次回は来年2020年4月18日の土曜日です。

**同窓会交流報告**

**つゝじヶ丘同窓会本部総会**

10月4日函館・五島軒本店で開催された本部同窓会に出席。東京支部会長就任のご挨拶を兼ねて、関東青雲会(東高)やラサール学園同窓会など在京の各同窓会に出席しましたが、やはり母校の同窓会は心がなごみます。今年は何年より少なく、165名の参加でした。稜北高校と統合し、これからの同窓会のあり方に課題を残していますが、私と同様に今年会長に就任した能登谷公さんと協力しながら、同窓会を盛り上げてゆきたいと思っています。(会長 折田信一 18回生)



**関東青雲同窓会**

5月25日大手町サンケイプラザホールにて開催。出席者は150名。そのうち50歳を迎えて幹事役を務めた回生が42名と最も多く、全参加者の8割が50代という若さと熱気に溢れた同窓会でした。高校時代からロックバンドのボーカルとして活躍

していた同窓生によるライブ、ビンゴによる抽選会、校歌・応援歌の斉唱、最後に次期幹事回生へのタスキの引き継ぎパフォーマンスで終了しました。(会長 折田信一 18回生)

### 東京函館商業同窓会

7月6日、出席者117名を集めて恒例の第一ホテル両国で開催。道下会長は3年目となり、会の運営も堂々としたもの。懇親会は、初参加者と10年以上久しぶりの参加者の紹介から始まり、余興(ワイアンフラダンスと演奏)、参加者による抽選会、同窓生による販売、有志による校歌・応援歌の熱唱、顧問による万歳三唱で散会。(副会長 佐藤雅英 18回生)

### 函館工業高校関東支部同窓会

10月5日、日暮里ホテルラングウッドで開催。出席者は77名。懇親会で大いに盛り上がったのは、余興の「地名クイズ」。難しい地名の正解者には景品が進呈され、皆おしゃべりも忘れて一喜一憂する好企画。また、初参加者の紹介は、次回の出席につながるためでもあるそうだ。テーブル毎に撮影した写真はプリントして、帰りに全員に配布しており参考にした。(広報部長 井田幸子 20回生)

### 白楊ヶ丘同窓会東京支部

11月9日、半蔵門グランドアークホテルで開催。出席者は185名。青雲同窓会と同様に、50歳になる回生が幹事を務めるため、その前後の回生

の出席数が多く、若さと熱気を感じる同窓会でした。印象に残ったのは、札幌を中心に活躍している同窓生による「キックコーリーズ」というアコースティックユニットの演奏。のこぎり楽器として使い、北海道の風景を思わせるようなおらかで美しいサウンドで、さまざまなジャンルの曲を演奏。初めて聞くその音色が印象的でした。(会長 折田信一 18回生)

### ★西高ゴルフ会を開催

去る9月25日(水)茨城県取手桜が丘ゴルフクラブにて函館西高ゴルフ会を開催。絶好のゴルフ日和の10名の参加とコンペギリギリでしたが、和気あいあいの楽しい会となりました。優勝は小嶋俊昭さん(10回生)、準優勝とベスグロ賞は森英爾さん(9回生)、3位に大久保吉郎さん(13回生)が入賞。年々、参加者が減少しており、来年はもっとたくさんの方に参加を呼びかけましょう。と再会を約束して閉会となりました。ゴルフ愛好家の皆さん、是非一度参加してみませんか。函館駅牛会ゴルフコンペ(中部、東、工業、商業、西の5校)も年1回実施しています。



(長谷川好広 32回生)

## 事務局活動報告

事務局長 安原秀樹(18回生)

◎5月11日(土)第18回総会・懇談会  
目白椿山荘 参加者220名

◎事務局会議 編集会議

6月22日(土)事務局会議・学年幹事会打合せ、会報23号編集打合せ

7月6日(土)同窓生名簿データベ  
ース研修会(事務局)

8月24日(土)会報23号編集会議

11月16日(土)会報23号編集会議

12月7日(土)事務局会議、会報發送作業他

◎学年幹事会開催(24名出席)

7月6日(土)東大島文化センター

・総会・懇親会の総括と会計報告(総会経費)、反省点・改善点の討議など  
事務局提案議題討議・会費納入手数料、総会出欠葉書、会報発行回数などについて

### ★同期会開催に補助金進呈

同期会を開催する場合は、開催報告をホームページに掲載することを条件に、年1回5千円の補助金を差し上げています。東京支部のホームページから申請書をダウンロードしてお申し込みください。

## 会員の皆様へお願い

東京支部活動の充実のために年会費2千円納入にご協力を

同窓会は年会費と総会・懇親会会費で運営されています。同窓会活動を今後とも維持・活性化していくために、会員の皆様のご支援をお願い申し上げます。

年会費の振込手数料  
ご負担のお願い

本年4月から年会費振込手数料が70円の値上げとなっております。これまで振込手数料は事務局が負担してまいりましたが、会員数の減少と振込手数料の値上げを踏まえ、学年幹事会において審議の結果、年会費はこれまで通り2千円とし、別途振込手数料を皆様にご負担いただくことにしました。ちなみに現在、郵便振込手数料は、ATM152円、窓口203円となっております。どうか、やむを得ない事情を鑑みて皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 《編集後記》

新体制での会報制作がスタートしましたが人手不足が深刻です。手伝ってくれる人材を大募集中です。ご協力、助太刀いただける同窓生はぜひ事務局にご連絡ください。(井田)

あなたの投稿(思い出、出来事、旅行など)をおまちしています